

農試第291号
平成20年4月28日

各関係機関の長様

福井県農業試験場長
(公印省略)

農作物病虫害発生予察予報の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。

| | |
|--------|--------------------------------------|
| 連絡先 | 福井県農業試験場 病虫害防除室 |
| Tel | 0776-54-5100 |
| FAX | 0776-54-6403 |
| E-mail | byogaicyu-boujo@fklab.fukui.fukui.jp |

平成20年農作物病虫害発生予察予報第3号

5月の気象予報

天気は数日の周期で変わる見込みです。

気温は高い、降水量は平年並み、日照時間は平年並みと予想されます。

[水稻関係]

病虫害名 苗いもち

1 予報内容

発生時期：少発

発生量：平年より少なく、前年並み

2 防除対策

(1) 育苗施設内の換気に気を付け、過湿にしないようする。

(2) 育苗施設内や周辺に放置してある稲わらや籾がらは伝染源となるので、除去する。

(3) 発病の恐れがある場合や発生を確認した場合には液剤、水和剤で防除する。育苗期の薬剤防除は苗いもちだけでなく、本田の葉いもちを抑制する効果がある。

(4) 遅植栽培では、必ず育苗箱施薬を行う。

病虫害名 イネミズゾウムシ

1 予報内容

発生時期：成虫の進入最盛期は平年より早い5月5半旬頃

被害程度：少発、局中発（山間・山沿い）

発生量：平年より少なく、前年並み

2 防除対策

(1) 毎年発生が見られる地域、山間、山沿いに近い水田では被害が出やすいので育苗箱施薬を行う。

(2) 直播栽培で播種の早い圃場で、種子コーティング時に殺虫剤を混入していない場合、被害が大きくなる恐れがあるので注意する。

(3) 間断通水や浅水管理を行って幼虫の密度を抑制する。

病害虫名 イネヒメハモグリバエ

1 予報内容

対象作型：直播栽培、遅植栽培

発生時期：加害初期は平年より早い5月下旬頃

被害程度：少発

発生量：平年、前年並み

2 防除対策

(1) 直播栽培は被害を受けやすいので注意する。

(2) 産卵場所となる水面の浮き葉を減らす。

(3) 発生が多い場合は幼虫発生初期に薬剤を散布する。

[大麦関係]

病害虫名 赤かび病

1 予報内容

発生時期：初発は5月上旬

被害程度：少発、局中発

発生量：平年より少なく、前年並み

2 防除対策および防除上の注意点

(1) 赤かび病に最も感染しやすい時期は開花盛期である。そのため、穂揃期（出穂後5日頃）とその7日後頃の2回薬剤防除を行う。

(2) 出穂は圃場によって異なるので、必ず圃場の出穂を確認して、適期に防除する。

(3) 赤かび病が多発すると、赤かび粒を除去することが難しいので、圃場審査と別仕分けを行う。

[野菜関係]

| 野菜名 | 病害虫名 | 予報内容 | | | 防除対策 |
|---------|---------------|-----------|---------|----------------|--|
| | | 発生時期 | 被害程度 | 発生量 | |
| アブラナ科野菜 | モンシロチョウ | 加害盛期：5月中旬 | 中発 | 平年：並み 前年：並み | 1)加害初期の若齢幼虫期に防除する。 2)対象作物により薬剤が異なるので注意する。 |
| ウリ類 | ウリハムシ(越冬成虫) | 初発期：5月中旬 | 少発(局中発) | 平年：並み 前年：並み | 1)対象作物により薬剤が異なるので注意する。 |
| 全般 | アブラムシ類 | 初発期：5月上旬 | 少発(局中発) | 平年：やや多 前年：少 | 1)定植期から発生初期にかけて防除する。 2)対象作物により薬剤が異なるので注意する。 |
| | ネキリムシ類(カブラヤガ) | 加害盛期：5月下旬 | 少発(局中発) | 平年：並み 前年：並み | 1)被害の早期発見に努める。 2)対象作物により薬剤が異なるので注意する。 |

[果樹関係]

| 果樹名 | 病害虫名 | 予 報 内 容 | | | 防 除 対 策 |
|-----|------------------|------------------|-------------|-----------------|--|
| | | 発生時期 | 被害程度 | 発 生 量 | |
| ナシ | 黒星病 | 初発： 5月中旬 | 少発 | 平年：並み 前年：並み | 1)同一系統薬剤の連用は避ける。 |
| | 黒斑病 | 初発： 5月中旬 | 少発 | 平年：並み 前年：並み | 1)同一系統薬剤の連用は避ける。 |
| | 赤星病 | 初発： 5月上旬 | 少発 | 平年：少 前年：並み | 1)同一系統薬剤の連用は避ける。 |
| ウメ | かいよう病 | 果実初発 4月下旬 | 少発 (局中発) | 平年：やや多 前年：並み | 1)生育期(5月)に抗生物質剤で予防防除する。 2)降雹後は、ただちに抗生物質剤で防除する。 3)防風対策等を実施する。 |
| | ウメシロカイガラムシ(第1世代) | 幼虫発生 初期：5月1半旬 | 少発 (局中発) | 平年：並み 前年：並み | 1)予測したふ化時期の1週間前から越冬成虫を観察して、ふ化時期を把握して、適期に防除する。 2)越冬成虫のカイガラ着生が多い樹ではふ化初期とその7日後の2回防除する。 |
| | コスカシバ | 加害時期：4月～10月 | 少発 (局中発) | 平年：並み 前年：並み | 1)5月上中旬にスカシバコンを10a当たり50本枝につるす。 2)侵入部を見つけ捕殺する。 |

[花き関係]

| 花き名 | 病害虫名 | 予 報 内 容 | | | 防 除 対 策 |
|-----|-------------|--------------|-------------|-------|--|
| | | 発生時期 | 被害程度 | 発 生 量 | |
| キク | 白さび病 | 初発期： 5月中旬 | 少発 | 前年：並み | 1)罹病株が周辺への伝染源となるので、抜き取り処分する。 2)日当たり、風通しを良くする。 3)同一系統薬剤の連用を避ける。 |
| | アブラムシ類 | 初発期： 5月上旬 | 少発 (局中発) | 前年：並み | 1)同一系統の薬剤を避ける |
| | ミカンキイロアザミウマ | 初発期： 5月上旬 | 少発 (局中発) | 前年：並み | 1)同一系統の薬剤を避ける |